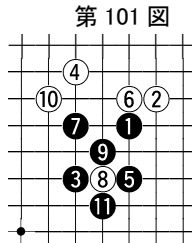


彗星ガイド (11)

九段 河村典彦

今回も新しい白4を調べてみよう。

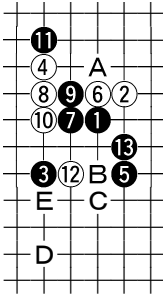
【第101図】白4は白2の位置から大桂馬の位置にある。ここまで離れていても、そう簡単に勝てる訳ではない。ただし、黒5では八題ぐらいは打てそうだ。どこに打っていいかわからない時には、まずはこの黒5から考えてみたい。これまで大



体は白4には通用していたが、この白4でもまず大丈夫そうだ。

白6と打つしかないようだが、黒7と構えておいて良さそうだ。白8なら黒9と引き、白10に黒11と含み手を打てば、これで白の攻めもけん制している。

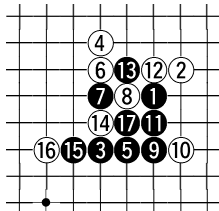
第102図



【第102図】次にこの黒5が有力だろう。白6でAならBCDEの順に追い勝ちとなる。前図と同様、白6でAに打てないのが白の辛い所である。という訳で同じく白6だが、黒7と構えておく。白は4の石を有効に使うためにも、白8、10と防ぐのが有力だろう。黒は11と冷静に止めておき、下辺での黒勝ちを狙う。白12と止めるなら、続けて

黒13と呼手を打って黒は優位に進めることができるだろう。【第103図】黒5の3か所目。この黒5も黒の連絡が白の連絡よりい

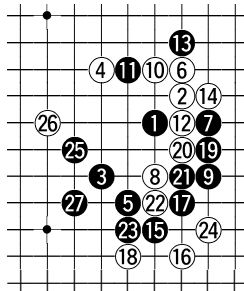
第103図



引けば黒勝ちとなる。

【第103図】黒5が成立するかは少しややこしい。白6や10に打った時に黒7と止める手が呼手になるためには黒5に石があれば良い。しかし、黒5で例えば25や26の場合、黒5の地点に石を持つてくるためには三を打たなければならず、そうならば白石が増えるので白勝ちが発生してしまう。従って、単に黒5と打つ手なら何とかなりそうだ。つまり、

第104図

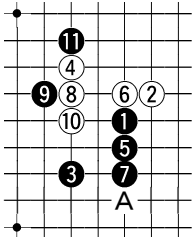


黒5を25や26は無理という事になる。

白6に黒7と打って次に8や20からの追い勝ちを狙えば、白は上辺に呼手を打つ暇がない。白8は一旦下辺を消して上辺に呼手を打つ狙いだ。黒は9と打ってけん制する。もし白10から14までけん制すれば、黒は15から引き出す。これも黒9の効果だ。黒25から27と左辺に抜けてしまえば、あとは簡単だろう。

【第105図】黒5もこの白4には打てそうだ。次に黒7から追い勝ちがあるので、やはり白は6と打つしかない。これに対しては黒7と

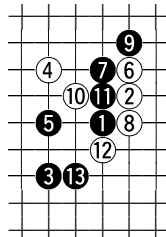
第105図



るので、黒5をAも可能だ。

【第106図】こちらの「いつもの手」も可能だろう。白6を7なら黒

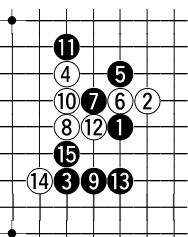
第106図



としては、白6は8の方が強い。

【第107図】黒5で絡んでいく手の中では、黒5が有力だ。白6黒7

第107図



勢に回ることができ。

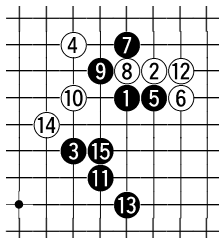
【第108図】これまで8か所の黒5を紹介したので、もう十分だろう

さらに構えておく。白8から攻められた時は黒9の外止めが肝心で、うっかり中止めでは白11から勝たれてしまう。黒9なら白は10と引くしかなく、黒11と止めておいて下辺で黒の勢力がある分黒が有利だろう。なお、黒5をAも同じような展開になるので、黒5をAも可能だ。

追い勝ちになるので白は打てない。白6はここか8ぐらいだろう。白6には黒7と絡んでいくのがわかりやすい。こう打たれたら白は8と引いていくしかないが、黒9、11と先手で止めていける。白12に黒13と押さえて黒が有利に展開できそうだ。結論

白8で、白4の石がいい位置にありそうに見えるが、黒3の石も負けず劣らずいい位置にある。黒9と打つことにより、黒3の石をうまく使えるからだ。白10に黒11と止めて、黒3の石が白の剣先を止めている。続いて白12なら、黒13と引き、白14に黒15と止めておく。これで黒は攻

第108図

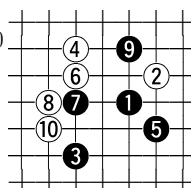


う手が打てれば連珠も楽しくなる。

もちろん、白6やその先で白にはいろいろな手があり、そう簡単

に黒が勝てる訳ではない。

第109図



【第110図】黒5と3の石より左側に打つのは白6を許すことになる

だけにさすがに打てないだろう。黒7とトビ三を打てるのがよりどころなのだが、黒9と打った時に白8の石が増えているのが後で利いてくる。白10から白12と固まられると、黒13から15と防ぐしかないが、白16の手が8の石を生かして四追いになっている。黒はうまく防ぐ手がなく、白勝ちとなる。

第110図

